

中標津空港を中心とした 3自治体のネイチャーツーリズム

市場創造・顧客育成・連携協定

柴田、三浦、水口、葉、片桐

はじめに

1回目の発表

役割分担・相互補完による、地域資源・観光資源を磨き、
道東地域の中でも特別な地域として強い面を目指す連携

発表のフィードバックより

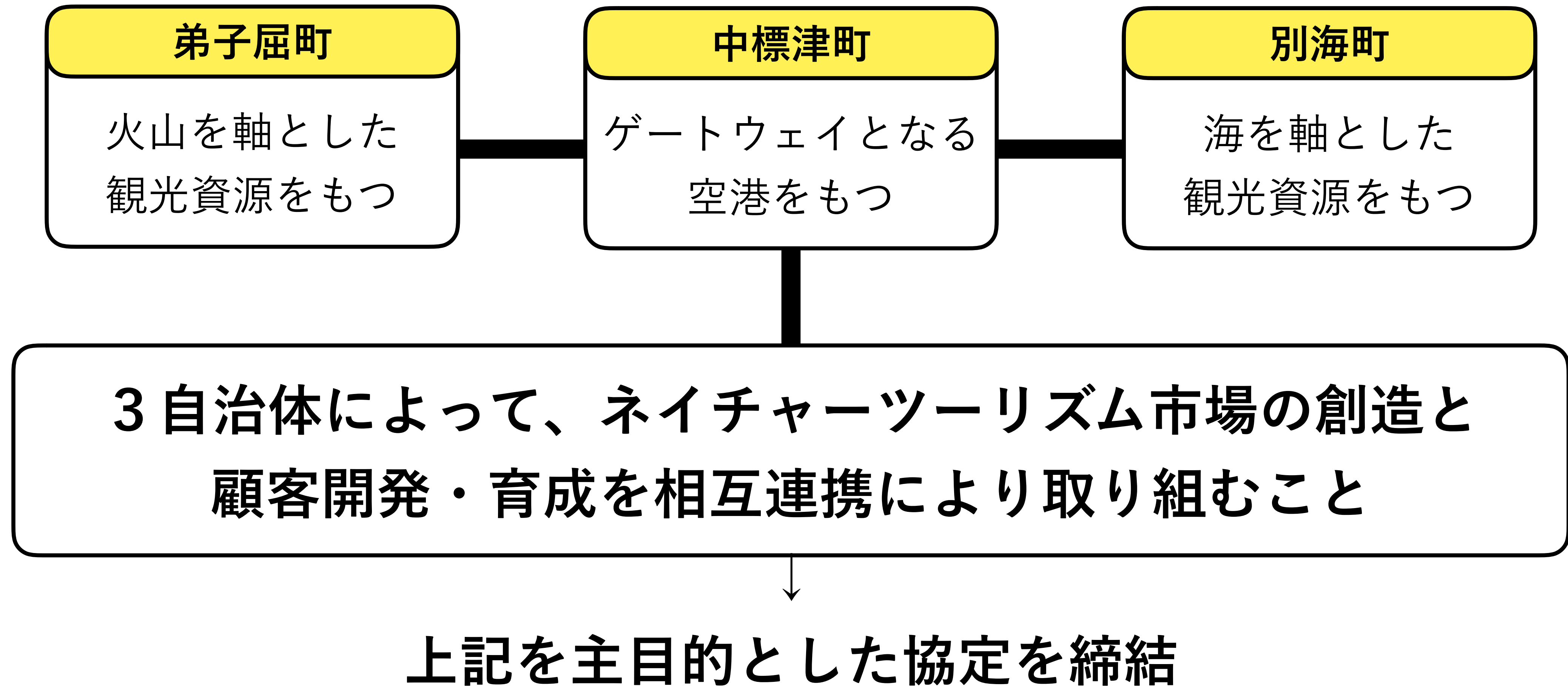
中標津町・別海町ともに弟子屈町との観光分野での連携を強く求めている

協議会や連盟などの枠組みがすでにあり、
3つの自治体が大きく活動することは容易ではない…

提案

中標津空港施設の利活用と
そこからはじまるネイチャーツーリズムに焦点をあて、
3つの自治体が未来に向かう・持続可能な連携

3自治体連携の方向



協定の取り組み

①市場調査の実施

- I)
各自治体の観光拠点における
観光者の動向調査と共有、分析
- II)
調査結果の分析・検討、
町民および各関係団体への
情報共有と意見交換の実施
- III)
調査の分析結果を基にした、
新しい観光資源の創造と実証実験

②顧客の開発・育成

- I)
将来の顧客：道外修学旅行生
- II)
生涯学習エコツアーリズム
・スポーツツアーリズム（初級 中級 上級）

③情報発信

- I)
中標津空港を利用した情報発信
- II)
連携サイト構築による情報発信

1

市場調査の実施

市場調査の実施

【課題】 観光客の意識調査など基本的な情報が不足している。

→ 既存の観光客+教育旅行の誘致で調査対象を拡大しつつ、実証実験に向けたデータを収集する

①各自治体の観光拠点における動向調査

【中標津町】

- ・ 空港発着者（レンタカー利用者含）の調査を実施

【弟子屈町】

- ・ 宿泊施設利用者の調査を実施
- ・ 屈斜路湖、摩周湖、硫黄山、ネイチャーセンター利用者の調査を実施

【別海町】

- ・ ネイチャーセンター利用者の調査を実施

②動向調査の共有・分析・検討

行政、町民および
各関係団体への情報共有と意見交換の実施

③新しい観光資源の創造と実証実験

- ・ 商品造成
- ・ 物産品開発
（飲食店での展開・お土産品展開）
- ・ 二次交通開発

2

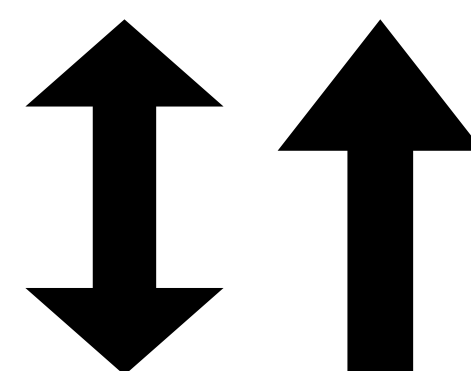
顧客の開発・育成

顧客開発・育成に向けたターゲットの考察

既存ターゲット市場

生涯学習エコツアーリズム・スポーツツアーリズム（初級 中級 上級）

同時に既存市場にも効果的なアプローチ・誘客を図る
・子供の長期休業期間中の家族誘致(長期滞在にも対応)
・環境・健康・食に関心の高い層の
探求心を満足させるメニュー開発



高校生等若年層の学校行事による人的交流の強化
将来的な北海道・道東旅行の
潜在需要拡大に繋がる可能性が高い

好循環を生み出すターゲット想定

道外修学旅行生

より多くの教育旅行を誘致し、将来の交流人口の拡大を目指す。

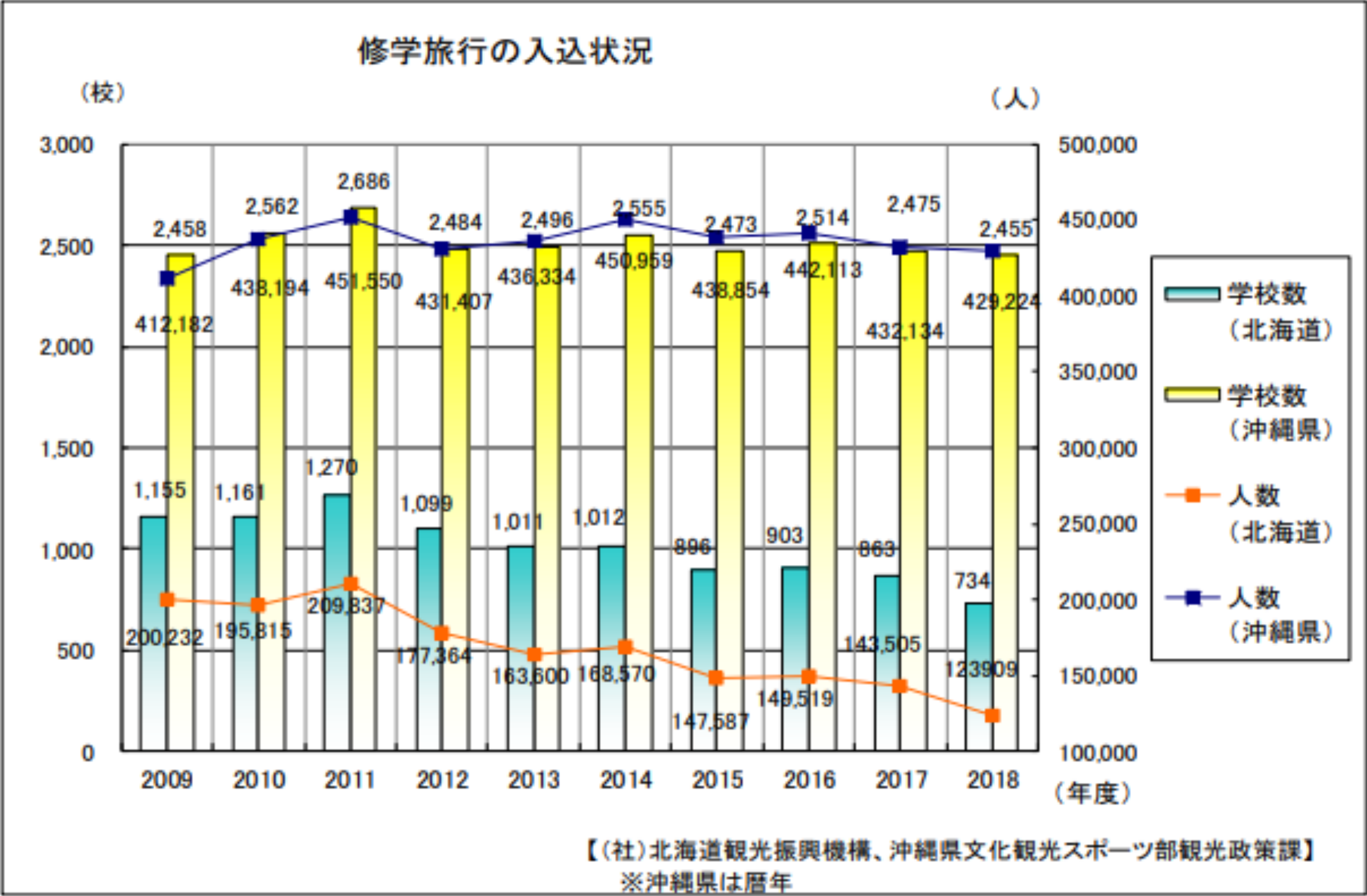
教育旅行の調査

平成30年度北海道修学旅行実績 ※9月に発生した北海道胆振東部地震が大きく影響

小中学校・高校・その他：734校、人数：123,909人（対前年比86%）

近年の傾向

北海道への修学旅行は沖縄県へのシフトが進み、現在では沖縄県の1/3以下に減少



高等学校における修学旅行宿泊地の推移

	1位	2位	3位	4位	5位
2001年度	北海道	京都	長野	沖縄	長崎
2003年度	沖縄	北海道	京都	長野	長崎
2004年度	沖縄	北海道	京都	長野	東京
2006年度	沖縄	北海道	京都	長野	東京
2008年度	沖縄	北海道	京都	東京	長野
2010年度	沖縄	北海道	京都	東京	長野
2012年度	沖縄	北海道	京都	長崎	千葉
2013年度	沖縄	北海道	京都	東京	長崎
2014年度	沖縄	北海道	京都	千葉	長崎
2015年度	沖縄	北海道	京都	東京	千葉
2016年度	沖縄	北海道	京都	千葉	東京
2017年度	沖縄	北海道	京都	東京	千葉
2018年度	沖縄	京都	北海道	千葉	東京

【公益財団法人日本修学旅行協会 教育旅行白書、教育旅行年報】

出典：北海道観光の現況2019より

教育旅行の調査

※海外修学旅行実施基準は別掲。

	校種	日数(時間)	旅行費用	実施学年	実施許可基準	旅行方面	引率教職員	備	考
東京都	小	普	} 区市町村教育委員会の基準による						
	中	普							
	都立中学校及び中等教育学校前期課程		各学校の旅行計画について、東京都教育委員会と協議して実施している。						
	教育高等学校後期課程	普	9 6 時間以内	86, 000円以内(税抜)	第 2 学年 9 月以降	原則として全員参加	規定なし	学校長の判断による	
		定			第 3 学年 9 月以降				
	特別支援校	小	日帰り	20, 300円以内	第 6 学年	〃	規定なし	規定なし	学校長の判断による
		中	7 2 時間以内	54, 800円以内	第 3 学年	〃	規定なし		
		高	9 6 時間以内	85, 000円以内	第 2 学年 9 月以降 第 3 学年	〃	規定なし		
神奈川県	小	普	} 市町村教育委員会の定める基準による						
	中	普							
	高	普	4 泊 5 日以内	保護者の経済的負担を十分に考慮した適切な額	在学中	80%以上の参加	教育的見地から慎重に検討して選定	県立学校：学級数×1. 2+2	
		定				60%以上の参加			
	特別支援校	小							
	中								
	高								
千葉県	小	普	} 市町村教育委員会の定める基準による						
	中	普							
	準中学校等前期課程、中学校、後期課程、高等学校、及び中等教育学校の及び学		3 泊 4 日以内	保護者の経済的負担を十分に考慮して、その軽減に努力するものとする。	規定なし	80%以上	規定なし	学級数×1. 5+2 養護教諭又は校長の委嘱した保健担当者を含めること	
		高	普	4 泊 5 日以内	100, 000円以内(消費税別)	規定なし	80%以上	規定なし	学級数×1. 5+2+(1) (1)は、8学級以上のみ養護教諭又は校長の委嘱した保健担当者を含めること
	定	70%以上							
	特別支援校	小	1 泊 2 日以内	25, 000円 (消費税含)	規定なし	原則として全員参加	規定なし	児童生徒3人につき1人+引率責任者を原則とする	航空機利用は前年度中に特別支援教育課と協議する。
		中	2 泊 3 日以内	56, 000円 (消費税含)					
		高	3 泊 4 日以内	105, 000円 (消費税含)					

教育旅行の調査

選定方法

- ・ 保護者に説明のつく場所を選ぶ（教育的意義）
- ・ 公立高校は都道府県ごとに予算・日数・実施学年が決められている
- ・ 日数・予算の上限があるため、交通（所要時間、修学旅行割の有無）は重要
- ・ 交通費と宿泊費で予算の4分の3、体験に使うお金は全体の約10%と少ない

求められること

- ・ 班別行動（主体性の育成）、体験学習（感動を伴う学習の深化）→「見学型」より「体験型」
- ・ 「自然・文化とのふれあい」、「地域とのふれあい」、「人とのふれあい」
- ・ 非日常を味わいながら現実社会の中にいる実感を伴うもの
- ・ 普段の生活にはないものごとを「自分ごと」として取り組める仕組み

基本フロー

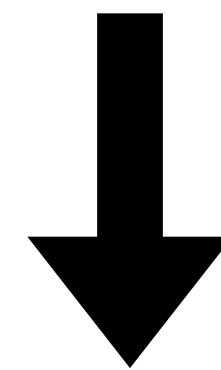
- ①事前学習・プランニング：参加することへの必然性や自分で決めたという意味決定の場
- ②現地体験：そのまちならではの「人に伝えたい」体験
- ③振り返り：体験の共有、次回への想像

教育旅行の調査

旅育のすすめ

核家族化によって、子供が育つ環境が狭く、関わる人が限られる→旅育の必要性

- ・ 普段と違う環境、人との関わりを学ぶ
- ・ 旅の中での自分の役目を認識
- ・ 本物に触れることによって興味関心を生む
- ・ 旅を通して郷土、歴史、文化などを学ぶ



**教育旅行の誘致は、修学旅行のみならず、
教育を目的とする家族旅行への展開の可能性もある**

修学旅行誘致ターゲット

対象

高校生

重点エリア

中標津空港への直行便がある羽田空港近辺の東京都・千葉県・神奈川県
特に友好都市（中標津町～川崎市）への活動は有効

修学旅行誘致ターゲット

考え方

3つの自治体の教育旅行メニューを主とした観光資源の連携を
期間ごとに、より多様化（好奇心・思考力・バリアフリー・連帯感）
可視化するとともに、マーケティングや効果検証のフォローアップを実施。

修学旅行誘致 モデルコース・選択肢

従来道東への修学旅行にて、中標津町、弟子屈町、別海町を周遊するコースがあまり見られない。
3自治体の連携で、自然・環境学習＋産業体験＋スポーツ体験＋歴史学習の教育旅行コースを創出！

中標津町

自然・体験学習

大平原パノラマ 開陽台
北海道らしい酪農風景 ミルクロード

産業体験

酪農体験 牧場 雪印工場
(バター、アイスクリーム、
ソーセージづくりや乳搾り)

スポーツ体験

乗馬
ロングトレイル

弟子屈町

自然・体験学習（国立公園）

日本一大きいカルデラ湖 屈斜路湖
日本一の透明度 摩周湖
地球の鼓動、温泉の流れ 硫黄山
自然教育 川湯エコミュージアム
野生動物 渡り鳥

スポーツ体験

カヌー、ネイチャーボート
乗馬
ロングトレイル

歴史学習

荒廃した温泉街

別海町

自然・体験学習（ラムサール条約）

日本一大きい砂の半島 野付半島
野生動物 アザラシ、渡り鳥、鹿など
トドワラ

産業体験

日本一の乳牛飼養頭数・生乳生産量
酪農業景色 新酪農村展望台
潮干狩り

歴史学習

北方領土教育 尾岱沼 ネイチャーセンター
国指定史跡旧奥行臼駅通所

修学旅行誘致 コンセプト

キーワード：日本最大

海と山の自然を中心に
環境（SDGs）・産業・北方領土を学ぶ



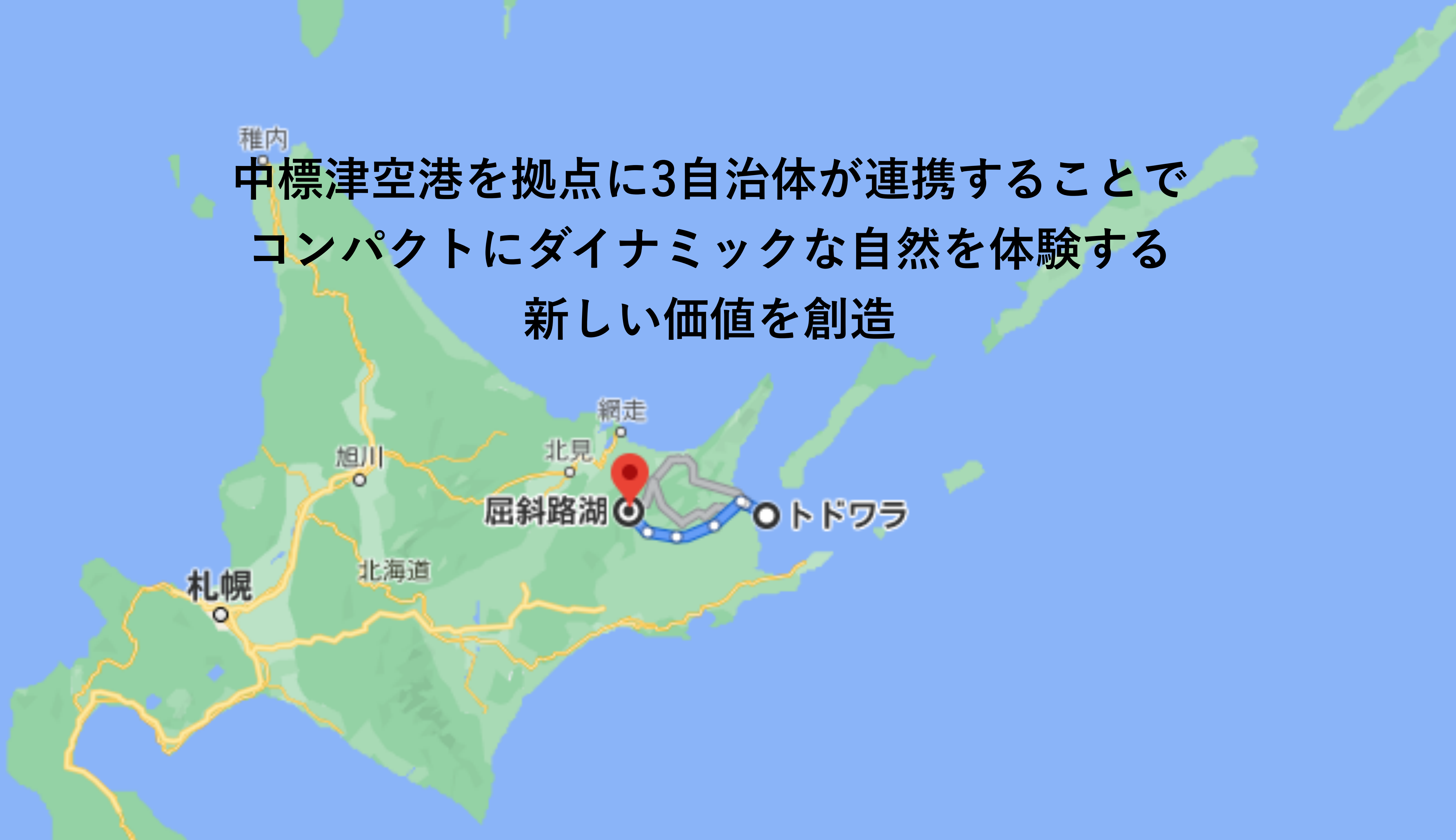
～日本最大カルデラ

屈斜路湖～

～日本最大砂の半島

野付半島～

中標津空港を拠点に3自治体が連携することで
コンパクトにダイナミックな自然を体験する
新しい価値を創造



修学旅行誘致 提供できること

自然とのつながり

地域とのつながり

人とのつながり

旅育



SDGsへの興味関心

その地域への興味
将来の
エコツーリズム客に

それっきりで
終わらない関わりを

修学旅行誘致から顧客の育成



【修学旅行にて 旅行に来て起こる気持ちの変化】

「こんなに美しい景観は存続させなければ！」

「観るだけではなく保全も必要かも」



【大学・社会人生活 環境に配慮した、サステイナブルなライフスタイル】

「普段の暮らしもサステイナブルを意識しています」



【高付加価値旅行や長期滞在旅行を選択】

「旅行に行くとしたら、

深く自然や地域、人に関わることができるところに」

「旅行費用は、自然や地域の維持もあるし

それに見合っていれば、高くても当然」

参考：北米の一人当たりの現地支出額 3,290ドル＝約36万円 （2017年）*1

*1：データ出所：Adventure Travel Trade Association資料

3

情報発信

情報発信の軸

3つの自治体の活動については、主体を行政から住民・単位観光団体等へ移し、振興局の枠組みを超えるとともに、プロモーション先を絞った活動を試行。

①

中標津空港を利用した情報発信

②

連携サイト構築による情報発信・情報共有

①中標津空港を利用した情報発信

【課題】

既存の観光案内所は根室管内の市町村で運営しているため、
観光案内所とは別に弟子屈・中標津・別海のPRをする場所を設ける必要がある。

国立公園に近い空港

- ・ 玄関口としての中標津空港
一道東の自然に入ったインパクト
- ・ 中標津だけではなく、
周辺地域の特徴を含めてプロモーション
- ・ さらに阿寒摩周国立公園への利便性をポイントとして誘致
- ・ 雄大な自然環境・観光ルートの可視化
- ・ ポイントを示した地形の展示や、写真（ポスター）を利用

空港全体が観光案内所

- ・ 木造建築の価値を活かす
- ・ 酪農、アウトドアや動物などの展示や芸術で雰囲気づくり
- ・ 地産品の販売：道東のミニアンテナショップ「空の駅」
- ・ 修学旅行生の楽しみとして写真スポットなど
帰りの待ち時間を活用できるコンテンツの提供
- ・ 手荷物預かり（宿泊施設への配送）等のサービス提供
→ランニング、ウォーキング、サイクリング愛好者向け

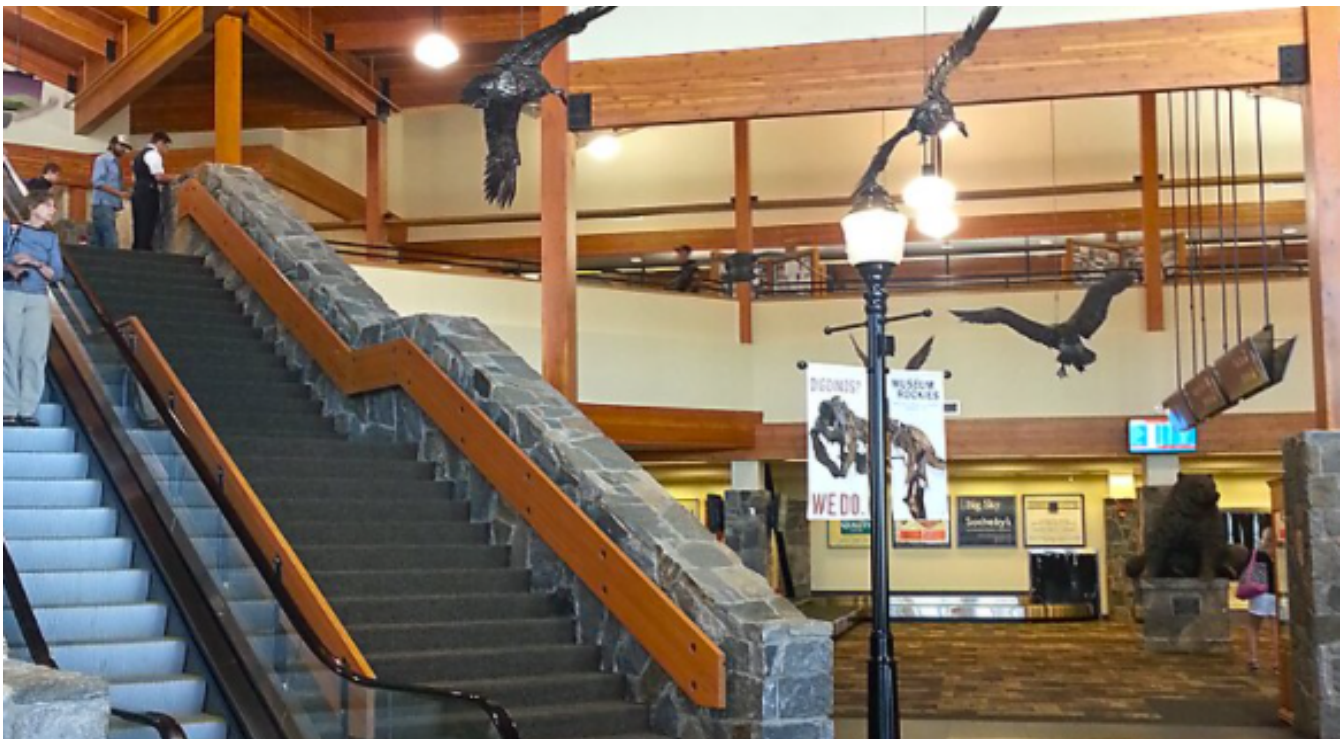
Missoula International Airport(Glacier National Park)



Jackson Hole Airport(Grand Teton National Park)



Bozeman Yellowstone International Airport(Yellowstone National Park)



②連携サイト構築による情報発信・情報共有

情報発信の母体としての連携サイト

教育旅行の事前学習や基本的な情報発信

修学旅行の振り返りと共有の場を提供する特設サイト

振り返りまで自治体と連携をし、情報発信の一助とする

【プロモーションへの展開】

- ・北海道庁等を中心とした特別なプロモーション活動が必要
 - 公益財団法人日本修学旅行協会や公益財団法人全国修学旅行研究会などが
全国各地にある公立学校修学旅行委員会に対し、修学旅行先の情報を提供。
- ・各観光協会・施設と連携し、リモートでの観光資源の紹介・案内
 - 札幌圏内の観光協会とも連携し、旅の計画作りを支援
- ・国の「北方領土隣接地域への修学旅行誘致促進」のため教員等を対象に下見ツアーなどの活用

まとめ

基盤

3自治体によるネイチャーツーリズムの相互連携に取り組む協定

①市場調査の実施

各自治体での同一ターゲットに向けた
観光拠点での調査実施、共有・分析

3自治体の連携による
新しい観光資源の創造

②顧客の開発・育成

教育旅行を主軸としたプランニング
「日本最大」をキーワードに
「コンパクトにダイナミックな自然を体験」

既存市場に対する
将来の交流人口の拡大

③情報発信

1.中標津空港の施設としての利活用
2.情報発信の母体と、教育旅行に向けた
情報を発信させるサイトの運営

滞在時間での経験や振り返りで
地域とのつながりを深める

中標津空港施設の利活用とネイチャーツーリズムに焦点をあてた
3つの自治体が未来に向かう・持続可能な連携

中標津町

弟子屈町

別海町

連携協議会 実行委員会形式

調査：業務委託

顧客開発：業務委託

情報発信：業務委託